

受け継がれる伝統 西由岐うちわ踊り

420年の歴史を誇る西由岐八幡神社祭礼の宵宮。

西由岐のまちに囃子と小太鼓のリズムが響き、それに合わせて軽快に舞う踊り手の両手には「うちわ」が握られている。

両手にうちわを持って踊る『うちわ踊り』は、この地域独特の民俗芸能である。この

踊りが土地で生まれた踊りなのか、他の地域から伝わったものなのか定かではないが、かなり古くからこの地で続いており、軽妙洒脱な囃子唄と小太鼓にあわせて踊る粋な舞姿は阿波おどりの源流とも言われ、徳島県の無形民俗文化財に指定されている。



「西由岐うちわ踊り保存会」会長の大西藤吉さん

むかしは、まつりに限らず、建前や婚礼、船下しのめでたい酒宴の最後に誰からともなく踊り出すのが『うちわ踊り』でした。テレビやカラオケなどない時代、娯楽といえば踊りや唄であり、誰かに見せるためというより踊ることが楽しくて踊っていました。だから、『うちわ踊り』は教わって覚えたというより、大人たちが踊っている姿を子どもながらに見ていて自然と踊れるようになっていたという感じ。

しかし、今の子どもたちはまつりの宵宮でしか『うちわ踊り』を見る機会がない。このままでは受け継がれてきた踊りが途絶えてしまうかもしれないと思い、総合学習の時間に地元の小学2年生たちに教えています。



来年1月27日(土)には国立劇場の開場40周年記念講演として開催される『阿波の芸能』の演目のひとつ「阿波おどり～黒潮が伝えた阿波の華～」の部で『うちわ踊り』を披露する予定になっている。

コミュニティ助成事業の推進

コミュニティ助成事業（緑化推進コミュニティ助成事業）により、木岐地区の満石神社、椿公園付近を中心に椿や花木の植樹と備品の整備を行い地域のコミュニティ活動のより一層の充実及び推進を図りました。

この助成事業は、宝くじの普及広報事業の一環として実施しています。

宝くじの収益金は、学校・図書館等の教育施設の設備をはじめ道路・橋りょう・公園・社会福祉施設等の建設改修など、皆様の日常生活に役立つように使われています。



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に
役立てられています。

